

花まつり

平成31年4月第1週放送

明日、四月八日は「花まつり」。お釈迦さまがお生まれになったとされる日です。正式には「ごうたんえ釈尊降誕会」といい、さまざまな宗派のたくさんのお寺でお釈迦さまのお誕生をお祝いします。

ひと月遅れで花まつりの行事を行う地域もあり、春を迎えて暖かさが増し、草木が芽を出し花を咲かせる、自然のいのちの息吹を感じるこの季節が、より一層お釈迦さまのご誕生を祝っているかのようです。

お釈迦さまは、およそ二千五百年以上前、ヒマラヤ山脈のふもと麓に位置した釈迦国の王、スッドーナとマーヤーのあいだにお生まれになりました。母マーヤーが出産のため里帰りをする途中、ルンビニーという花園でお釈迦さまは誕生されます。

生まれてすぐに、七歩あゆ歩まれたのち「天てん上天下唯我独尊」と宣言され、そこに空から祝福の雨と、たくさんの花が降り注いだと伝えられています。

この伝説的なエピソードは、お釈迦さまの教えを象徴していると考えられるでしょう。誕生後すぐに歩まれた七歩は、六つの迷いの姿を抜け出ることをあらわしているともいわれ、「天てん上天下唯我独尊」と宣言された言葉は、一人ひとり、一つひとつの「いのち」は生まれながらにして尊いものであり、互いに敬うべきかけがえのないものであることを伝えている、と受け止めることができるのではないのでしょうか。

差別・虐待・自死・過労死・貧困・原発など、現代社会は人の「いのち」を軽視することから起きる問題が山積しています。

「花まつり」にあたり、花御堂の中の可愛らしいお釈迦さまに手を合わせ、あまちゃ甘茶をそそ濯ぎながら祈り、お釈迦さまが示された「いのち」の尊さに気付きたいものです。

そして、お釈迦さまの教えに親しむことで「いのち」を敬うことのできる自分自身に変わっていくことも、お釈迦さまのお誕生をお祝いすることに違いありません。

— 終 —